

佐渡

佐渡支局 〒952-0006 佐渡市春日1143-9
0259(27)2495
(27)4811
FAX(27)2090

加茂小 5年

チャレンジ



磯野 雛

わたしは、あいさつをがんばっていきます。朝起きると、家族に、「おはよう」と言います。そして、登校中に会った人、学校で会った人に、「おはようございます」と言います。これからは、もっと大きな声ではきはき言えるようになりたいです。また、あいさつの中でも特に、「ありがとう」「ごめんさい」を大切にしたいです。

尾畑酒造 学校蔵 日本総研 藻谷さんら特別授業

トキ復活未来につなげて 地域内の資金循環も提案



藻谷浩介さん(左から2人目)を招き、人口減少など佐渡の課題を話し合った特別授業。佐渡市西三川

尾畑酒造が整備した佐渡市西三川の学校蔵で22日、研究者やコンサルタントなど識者を招き、佐渡の未来を考える特別授業が行われた。「里山資本主義」などの著書で知られる日本総合研究所主席研究員の藻谷浩介さんら4人が出席。藻谷さんは「佐渡はトキを復活させた成功体験があり、可能性が感じられる」と将来性を評価した。

特別授業はことしできた学校蔵を地域の交流拠点として生かそうと、尾畑酒造と東京のコンサルティンク会社BOLOBOPが主催。市民や企業団体、行政関係者ら約50人が空き教室を利用した会場に集まった。

藻谷浩介さん(左から2人目)を招き、人口減少など佐渡の課題を話し合った特別授業。佐渡市西三川

2014年(平成26年)
8月27日
水曜日



藻谷さんは「佐渡ではトキは増えているのに人口は減り続けており、将来トキと人の数が逆転しかねない」と危機感を訴えた。その上で「事業所は売り上げが減ってもコストを削ってはいけない。給料など地域に回るお金を確保すれば、人口は必ず増える」と強調した。BOLOBOP最高経営責任者(CEO)の酒井穰さんは「課題や宿題を与えられる人はまた来たくなくなる。佐渡の困っていることについて率直に助けを求め、魅力ではなく課題を発信することが大切だ」と発想の転換を指摘した。会場から「佐渡を外国人に売り込むにはどうしたらよいか」などの質問も出された。博報堂コンサルタントの江口公浩さんは「ホームページでは写真など感覚的なものが大事だ。日本在住の外国人にフアンになってもらい、母国へ発信してもらおうのもすごくいい手だ」と助言した。